

このまちでチャレンジする

伝統や文化を継承する人。新たなことを創造する人。このまちにはチャレンジする人がいます。そして、その近くには影ながら支えてくれる人たちがいます。今月は2人のチャレンジを取り上げます。



木工作品も手掛け、ワークショップ等も開催しています



心も身体もやすらぐひととき



プレーパークに決まった遊び方はなく、誰もが自由に楽しめる空間です。1回目は積雪のある中での開催でした

イベント告知
自由に遊ぼう!
●日にち/7月24日(日)
8月21日(日)
●会場/町内のどこか(毎回変更)



しゅんいち 勝部 駿一さん

■プロフィール

岡山県出身。農林大学校出身の父の勧めもあり、高校卒業後、島根県立農林大学校に進学。現在2年生



幼少期から自然の中で遊んでいた勝部さん(左下)



「飯南の輝く女性展」の様子。景山さんの作品30点を含め、53点が展示され、多くの作品に、来場者は見入っていました



まき 景山 真貴さん
(作家名:かげやまき)

■プロフィール

飯南町を拠点に活動する絵本作家。「がまぐちがえるのつゆくさじむしょ」(フレール館出版)など、優しいタッチの絵本やイラストを手掛ける



緊張感をもってペンをいれます

企画展で得たもの

5月24日から30日の1週間、松江市のタウンプラザしまねで開催された「飯南の輝く女性展」。飯南町でいきいきと活動する女性の作品が展示され、多くの来場者が訪れました。今回、作品を出展した一人が絵本作家の景山真貴さんです。今回の作品展は、景山さんを知る住民の有志が企画し、提案したものの、誘いを受けた景山さんは、どんな作品を展示するべきか、少し悩んだそう。「飯南町を連想していただけのように思っ、家の周

続けることができる環境

今回の作品展だけでなく、景山さんには、このまちでの活動を支える存在がいます。景山さんが東京で活動をはじめたのは約20年前。作品展への出展など、精力的に活動していましたが、17年前、創作環境を変えるため、Uターンしました。Uターンしてからは、東京にいた時とは違い、自分の作品を観てもらったり、他の作家や出版社の人と会ったりする機会も減ったのだそう。

自由に遊べる空間を

毎月、町内で開催される「飯南プレーパーク」。まちの豊かな自然を活かし、子どもから大人まで幅広い世代に、自然の中で遊ぶ楽しさを知ってもらうことを目的に開催されています。これまで6回開催されている取組の中心となり、奮闘する勝部駿一さん。農林大学校に通いながら、自らのやりたいことにもチャレンジしています。

勝部さんは進学で飯南町にきた際、外で遊ぶ子どもたちの姿を見かけないことに違和感を覚え、「もつと自由に遊べる空間があれば」と思ったそう。そんな勝部さんの想いがカ

りの草木や、家族との日常をイラストにしてみました」と話します。

「一緒に展示させていただけいたおし花グループの皆さんや、日本画家の山浦さんの作品から刺激をもらえましたし、作品を観てくださった来場者の方の姿を見て、新しい作品を描きたいと思いました」と笑顔で続けます。

「それでも仕事はあります。こちらでの仕事は、地元の方のうれしい」と景山さん。今では、地元の人から仕事を依頼されることも増えてきました。「イラストを入れた地域のマップを描く仕事などは、難しさを感じつつも、新たな発見や刺激があつて。一つの仕事に、楽しみを見つけながら描いています」。



難しさを感じたからこそ、達成感のある作品に(役場本庁舎周辺のマップ絵)

たちになったきっかけは、昨年10月、町の社会福祉協議会主催の話し合いに参加したこと。話し合いのテーマは「子どもから高齢者まで交流できる取組」でした。

ここで、勝部さんはプレーパークを提案。「幼少期の自分の居場所であり、自由に遊べた空間を飯南町にも」と思ったことが、提案した理由です。閉会后、参加者から「ぜひやってみよう」と声を掛けられました。協力してくれる人がどんどん増え、勝部さんの想いが実現に向けて動き出しました。

頼れる人たちと共に

学校の中にも頼れる存在がいます。農林大学校の担任の先生も活動を支えてくれています。「『何でもやってみたらいい』と言ってくれるだけではなく、自分たちが気付かないところを気にかけてくれます」と話す勝部さん。身近な味方の存在も大きいようです。

初めての開催から順調に回数を重ねていますが、悩むことも。「関わる大人が増えて、できることも増えてきました。ただ、今の進め方やルールでいいのか、分からなくなる時もあるんです」と話します。

「自分一人で考えるのではなく、周りの人たちと試行錯誤したい。このまちの人に手伝ってもらったり、資源を活用したりすることで、純粋に大人も子どもも楽しめるプレーパークにできるはず」と勝部さん。みんなでこれからのことを考えていきます。



自由に楽しめるのがいいところ